

**平成 27 年度南極地域活動計画確認検討委員会
議事概要**

(日時及び出席者)

開催日時：平成 27 年 9 月 30 日 13 時 30 分～15 時 00 分

場 所：環境省第 2 会議室（中央合同庁舎 5 号館 19 階）

出席者：委員

齋藤孝基 東京大学名誉教授
鹿野久男 元（財）国立公園協会研究員
増澤武弘 静岡大学理学部特任教授
山内 恭 国立極地研究所特任教授
吉田栄夫 （公財）日本極地研究振興会理事長

オブザーバー

小吹直美 文部科学省研究開発局海洋地球課極域研究振興係
石崎教夫 国立極地研究所南極観測センター生活支援チーム
柏木隆宏 国立極地研究所南極観測センター研究支援・環境保護チーム

環境省（事務局）

鳥居敏男 自然環境局自然環境計画課長（議長）
中野彰子 自然環境局自然環境計画課 課長補佐
平野淳 自然環境局自然環境計画課 主査

(議 事 記 録)

開 会 環境省より確認検討委員会開始の挨拶のあと、各委員の挨拶。

環境省自然環境局自然環境計画課 鳥居課長（議長）挨拶。

議題 1 第 57 次南極地域観測隊活動計画確認申請書について

（資料 1 制限行為に関連する活動計画について、事務局が説明）

事務局 活動計画総数は 87 計画。制限行為に係る活動計画総数は 37 計画。今次隊は陸上生物チームが現地調査を行わないこともあり、例年に比べ制限行為に係る活動計画総数はやや少ない。

（資料 2 建設工事等に関連する活動計画について、事務局が説明。新規の大規模工事はない。）

齋藤委員 風力発電について、ブリザード時等の耐久性については問題ないのか。

極地研 最大で風速 60m/秒を想定して設計。また、風速 22.5m/秒を超えたら装置を止め発電は行わない。過去の失敗の教訓から検討し現在のシステムを採用した。

増澤委員 新設する基本観測棟については、いくつかの研究棟を統合するという話だが、元の各棟は廃棄するのか？

極地研 老朽化も進んでおり、廃棄を予定している。廃棄物は法に従い適切に処理する。

鹿野委員 自然エネルギーが今後主要な電力源となっていくのか？

極地研 現状では太陽光発電でまかなっている電力は数パーセント。風力発電も補助的な電力として考えている。複数の発電を同調させるシステムが必要だが、現状では困難。

議長 第57次南極地域観測隊の活動計画について「確認をすべきでない」旨の意見はなかった。計画の細部についてチェックを行った上で特段の問題がなければ計画どおり確認を行うという方向で審査を進めたい。

議題2 その他

(環境省職員による現地調査報告について、資料3-1、3-2を事務局が説明。)

齋藤委員 今回現地確認されたバッテリー爆発事故について、原因は分かっているのか？

極地研 バッテリーの過充電によるヒューマンエラーも原因のひとつ。対策としては、使用方法の引継ぎを徹底する等。

事務局 放射性廃棄物調査については昨年の法改正を受け、念のため実施したもの。特に問題のある結果は出ていないと考えている。

吉田委員 15次隊で放射性物質を用いた調査をみずほ基地で実施したと聞いている。

事務局 今後は、例えば、今回調査していない昭和基地内や、他の基地での調査も検討しうる。

増澤委員 自然由来と思われる、数値が少し大きな値を示したポイントは、継続して調査してもいかもしれない。

山内委員 放射性物質は持込みの際は申請することになるか？

事務局 申請いただく様式となっている。適切に持ち帰ることが示されていれば持込み自体が禁止されるものではない。

閉会 鳥居議長から閉会の挨拶

以上